

診療情報を利用した臨床研究について

虎の門病院間脳下垂体外科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめたものです。この案内をお読みになり、ご自身やご家族等がこの研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「自分や家族等の診療情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の相談窓口までご連絡ください。

【対象となる方】

調査対象となる期間： 2022年1月1日～2025年10月31日に、下垂体神経内分泌腫瘍（腺腫）のために虎の門病院間脳下垂体外科に入院・通院し、 経鼻的下垂体腫瘍摘出手術を受けられた成人の方

【研究課題名】

内頸動脈サイフォン部の三次元構造と下垂体神経内分泌腫瘍の進展様式に関する検討

【研究の目的・背景】

下垂体神経内分泌腫瘍（下垂体腺腫）は手術の際、横の方向（側方）への進展が強い場合、全摘出することが困難です。一方、下垂体の両側には内頸動脈という脳に血液を供給する最も太い血管が屈曲して存在しています。下垂体腫瘍は外側に進展する時、この内頸動脈の屈曲部分をすり抜ける様に進展します。このため、腫瘍を全摘出するためには、この内頸動脈の屈曲のパターンを正確に術者が知り、それぞれの屈曲パターンに合わせて最適な摘出ルートで摘出しなければなりません。また、内頸動脈は損傷してはいけない血管ですので、手術の摘りリスク回避の上でも極めて重要です。今回我々は、この下垂体近傍の内頸動脈の3次元的な屈曲構造を下垂体腫瘍の手術患者さんにおけるMR画像とMR血管撮影を用いて分類し、手術所見と比較検討いたします。最適な手術方法を内頸動脈の屈曲パターンから検討いたします。

【研究期間】

2025年12月19日～2028年12月31日

【個人情報の取り扱い】

お名前、ご住所などの特定の個人を識別する情報につきましては特定の個人を識別することができないように個人と関わりのない番号等におきかえて研究します。学会や学術雑誌等で公表する際にも、個人が特定できないような形で発表します。

また、本研究に関わる記録・資料は 虎の門病院において研究終了後 5 年間保管いたします。保管期間終了後、本研究に関わる記録・資料は個人が特定できない形で廃棄します。

【利用する診療情報】

診療情報：MRI 画像データ、手術ビデオ、手術記録、検査データ、診療記録、病理学所見

【研究代表者】

研究責任者：間脳下垂体外科 登坂雅彦

【虎の門病院における研究責任者・研究機関の長】

研究責任者：間脳下垂体外科 登坂雅彦

研究機関の長：院長 門脇 孝

【利用する者の範囲】

虎の門病院・間脳下垂体外科・西岡宏

虎の門病院・間脳下垂体外科・福原紀章

【研究の方法等に関する資料の閲覧について】

本研究の対象者のうち希望される方は、個人情報及び知的財産権の保護等に支障がない範囲内に限られますが、研究の方法の詳細に関する資料を閲覧することができます。

【ご質問がある場合及び診療情報の使用を希望しない場合】

本研究に関する質問、お問い合わせがある場合、またはご自身やご家族等の診療情報につき、開示または訂正のご希望がある場合には、下記相談窓口までご連絡ください。

また、ご自身やご家族等の診療情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、2026年3月31までの間に下記の相談窓口までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様に不利益が生じることはありません。

【相談窓口】

虎の門病院 間脳下垂体外科 • 登坂雅彦

電話 03-3588-1111(代表)